



(1) 國學院設立趣意書

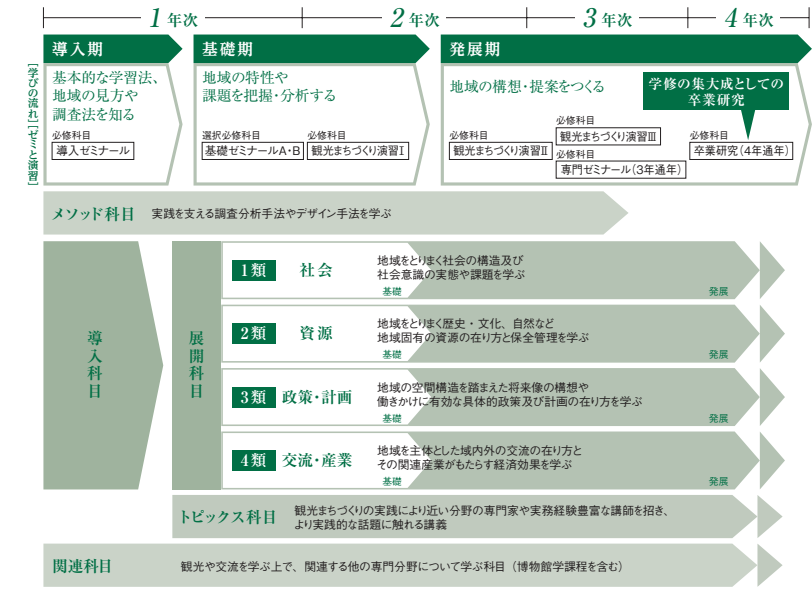
皇典講究所開校式（明治15年11月）における初代総裁有栖川宮幟仁親王の告諭には「凡學問ノ道ハ本ヲ立ツルヨリ大ナルハ莫シ」と示されている。これは、物事の本質を究明すること（「本ヲ立ツル」）が学問の道において重要であることを意味する。その後、明治23年7月に皇典講究所初代所長の山田顕義伯爵が公表したものが「國學院設立趣意書」である。日本および世界各国の文化・歴史・国の在り方を研究した上で、日本の在り方を問い直すことの重要性が示されている。

(2) 共通教育プログラム

「自らのアイデンティティの確立」「生涯の学習に必要なスキルの獲得」「主体的な社会参加に必要な知識・スキルの修得」を目的に設けられた全学向けの科目です。國學院大學では共通教育プログラムでの学びを通じて、学生が身につけることができる12の能力を「学修成果参照基準（RS：Reference Standard）」として定め、これに基づいて体系的に授業科目を編成。國學院科目群、言語スキル科目群、STEM（Science, Technology, Engineering, Mathematics）系科目群、シチズンシップ科目群、専門教養科目群、ライフデザイン科目群の6つの科目群を設けています。これらを修得することは、専門科目を学修することとあわせて、知的に豊かな生活を送ることを可能とするものといえます。

- 2/4(火)：英語外部試験利用型を実施**
- 一般入試A日程(全学部統一)内に新設。
 - 英語検定試験スコアが出願条件。
 - 独自試験は2科目で受験可能。本学独自の外国語試験は無し。
- ※2/4学部学科特色型との併願は不可。

観光まちづくり学部の専門教育科目の流れ



復興に取り組み岩手県陸前高田市などを訪問し、観光まちづくりのあり方を学んでいます。必修科目の「観光まちづくり演習Ⅰ・Ⅱ」でも少人数のグループで地域を訪れ、課題を探り、解決策を地域に提案。持続可能な地域の実現につなげています。夏季休暇には「夏期海外スタディツアー」を実施。海外の世界遺産や現地の大学を訪れ、異文化体験を通じて学問的な知見を深める機会となっています。これまでに参加した学生からは、「今回の体験を通して、これからもさまざまな国を訪問し、現地の人々と交流することで、多様な価値観や文化を学びたい」と思ったり「などの声が寄せられました。令和6年度はベトナムやタイで、各6日間の日程で実施予定です。

多様な国際交流「世界を知る」学びも充実

目的に合わせて選べる留学・国際交流プログラムがあることも國學院大學の特色です。授業を休まず異文化体験をするなら夏期・春期短期留学、しっかりと語学力を身につけるなら、セメスター留学（1学期間）や協定留学（半年〜1年間）が選択肢となります。国際性を身につける手段は留学だけに限りません。ネイティブ教員による英会話講座「English Lounge」、日本文化を世界に発信できる知識・技能を養う「グローバル・チャレンジ・プログラム」、各種イベントを通じて交換留学生と日本人学生の交流など、キャンパス内にも多様な国際交流を実現できる環境があります。今後もキャンパスの国際化を推進するため、針本学長は次のようなビジョンを描いています。

「グローバル化が加速する中、他者を理解・尊重したうえで、共生社会を主体的に生きる人材を育成することは本学の大切な役割の一つです。今後は、共生社会を創り出すことができる人材育成にも力を入れていきます。そのためにも、さまざまな国や地域から人が集まり、多様な価値観が混ざり合い、共に学び合うキャンパスを創っていきたくと思います。」

「グローバル化が加速する中、他者を理解・尊重したうえで、共生社会を主体的に生きる人材を育成することは本学の大切な役割の一つです。今後は、共生社会を創り出すことができる人材育成にも力を入れていきます。そのためにも、さまざまな国や地域から人が集まり、多様な価値観が混ざり合い、共に学び合うキャンパスを創っていきたくと思います。」

難関試験に挑む「KIPLAS」など手厚いキャリアサポート

就職に関しても、独自のプログラムが充実しています。一般企業への就職には、早いうちから仕事の現場を訪問する「業界別体験イベント」や、大手優良企業の人事担当者による説明会「企業セミナー」の開催に加え、「國學院生にチャレンジしてほしい企業」201社をまとめた冊子「企業大研究」を配付。「OBOG・内定者アドバイザーズ」ではアポイントを取らなくても、ブースをまるまるだけで國學院大学院出身の先輩社員にその企業の話を開けるのが特徴です。また、本番さながらの模試受験や、企業の採用担当者による模擬面接指導会なども行っています。

公務員またはグローバルビジネスを目指す学生には、全学共通実践的キャリア開発プログラム「PCAP」を設置。講義だけでなく、留学やインターンシップへの挑戦も支援しています。さらに、国家公務員総合職や公認会計士などに挑む学生には「KIPLAS」を提供。これは難関試験突破を目指す独自のキャリアプログラムで、「公認会計士コース」では日商簿記検定3級・2級合格を、「国家公務員総合職コース」では宅地建物取引士と行政書士合格を中期目標として設定。各資格を取得しながら1〜4年次まで無理なくモチベーションを継続できる仕組みです。各コースとも条件を満たし、学内選考試験を通過すれば、奨学生として専門家による授業を無償で受講できます。

素材やデザインにもこだわった多目的ホール（たまプラーザキャンパス若木21）



はりもとまさよし
針本正行学長

1974年國學院大學文学部文学科卒業。79年同大學大学院文学研究科博士課程後期単位取得満期退学。専門は平安時代文学。文学部長、副学長を経て2019年より現職。

〒150-8440 東京都渋谷区東4-10-28 入学課 TEL 03-5466-0141 <https://www.kokugakuin.ac.jp/>

明治15（1882）年に神道・国学の教育機関として創立された「皇典講究所」を基に設立された國學院大學。1890（明治23）年公示の「國學院設立趣意書⁽¹⁾」には、国史・国文・国法を中心に学び、海外百科の学問を網羅兼修する旨が書かれています。140年以上にわたって連続と続く歴史の背景には、日本文化を学び、他の国の在り方を学び、未来を見据える姿勢があります。

現在は、文学部・神道文化学部・法学部・経済学部・人間開発学部・観光まちづくり学部の6学部13学科を擁し、それぞれの学問分野から、日本と世界への理解を深める学びを展開。国際化、多様化が進む現代において、他者への理解と尊重を併せ持った共生社会を創り出す人材の育成を目指しています。

國學院大學

物事の本質を追究する学びを通して
自ら未来をひらき、生き抜くための
「問い直す」力を養う

不断に「問い直す」営みが新たな知の創造につながる

「もつと日本を。もつと世界へ。」をスローガンとする國學院大學。令和4年度からの中期5カ年計画では「知の創造。日本を見つめ、未来をひらく」という将来像を打ち出し、「問い直す」学び合う「共に生きる」を教育目標に掲げました。

大学は単なる知識の伝達ではなく、教員と学生、学生と学生と共に学び合い、知を日々新たにするとともに、既存の知を問い直し、知を創造する場です。針本正行学長は「問い直す」ことの重要性について次のように話します。

「テクノロジーの進化は、私たちの生活を多くの面で向上させ、学びの手段も多様になりました。一方で、人間を危うい未来に導く可能性もありません。たとえば、生成AI。知識の量ですでに人間を超えており、質問を投げかけると数秒で回答があります。データ分析もアイデア提案もレポート作成もしてくれます。しかし、その利点の裏には、人間の思

さまざまな成果が表れ始めた観光まちづくり学部

私たちがよつて立つ日本の源流をたどり、固有の文化や歴史を知ることから始まる國學院大學の学び。それは令和4（2022）年4月に開設された「観光まちづくり学部」の根底にも流れています。

近年、少子高齢化や都市部への一極集中などの影響により過疎化が進

行し、地域経済の衰退が危惧されています。「観光まちづくり学部」は、日本各地の地域社会が持つ奥深い歴史文化への理解と、地域の環境・社会・経済におけるさまざまな課題を分析・解決する能力を備え、地域社会の活力として貢献する人材の育成を目指す学部です。

その大きな特色は、「地域社会が協力して個性を磨き、地域の応援団を増やす。応援団が地域経済を回し、地域を活性化させる」という好循環を作ることを「観光まちづくり」と捉え、地域に根差した学びを行っていること。学生たちは各地に足を運び、理論と実践の両面から学んでいます。



モニュメント「翔」が学生を出迎える（渋谷キャンパス）